



トピックス

新しい傷病鳥獣リハビリケージが完成しました！

今回完成したのは、寒さに弱い夏鳥を冬期間收容するための室内ケージです。屋外の広々としたケージにいた個体を室内の狭い空間に移すと、個体差はありますが、ストレスでどうしても暴れてしまいます。そこで、これまで2度にわたってケージを



製作者のボランティア、Kさん

製作して下さったボランティアのKさんに再度依頼をしたところ、わずか5日間で完成しました。このケージの特徴は、上下に2つの扉がついていることです。これにより上下に分割して使用することができ、小型鳥類だけではなく、リスなどの哺乳類にも対応可能となりました。また、室内の糞汚れを防ぐために、後ろの面がプラスチックの板でできています。暖くなる春に向けて、現在はチゴハヤブサとラフズクが使用中です。Kさん、ありがとうございました！



使用中のチゴハヤブサ

冬鳥の姿が少ないようです

ロシアなどで繁殖した後、日本へ渡って来る「冬鳥」は、ガン・カモ類やハクチョウ類といった水鳥ばかりではなく、山野にすむツグミなどの小鳥もいます。

ウトナイ湖周辺では例年、この時期にハンノキの種子を食べるマヒワの群れが見られるのですが、今冬はその姿が全くありません。他の冬鳥も同様です。渡って来るのは食べものを求めて、と考えられますが、繁殖地周辺あるいは渡りの中継地に木の実などが豊富に残っているのかも知れません。

この先はツグミやレンジャク類などの出現に期待しましょう。



この冬はツグミの姿も少ない

たとえ冬鳥の姿は少なくても、見通しの良い冬の林は、1年を通して生息するカラ類やキツツキ類、エナガやゴジュウカラを観察するのに適しています。



ハンノキに群れるマヒワ



ハンノキの種子を食べるマヒワ



【自然観察路情報】

2019年1月18日(金) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

トビ、コゲラ、アカゲラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、種不明ワシ類

《植物》

イボタノキ、メギ、キハダ、ハリギリ、ホオノキ(以上、実)

エゾニワトコ、ホオノキ、(以上、冬芽)、バッコヤナギ(すでに綿毛の芽が出る)

フッキソウ(緑の葉)、ミズキ(赤い枝)

《ほ乳類・その他》

キタキツネ、エゾシカ、エゾリス、エゾユキウサギ、種不明ネズミ類(以上、足跡)

キタキツネ(ふん)、エゾリス(古巣)、メジロ(古巣)

種不明キツツキ類(木をつついた跡)、種不明ワモ類(卵のう)



ヒヨドリ



エゾニワトコ



ネズミ類の足跡

【水鳥カウント調査結果】

2019年1月18日(金) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数、(±)は「前後」の意味

ヒシクイ(1)、コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(53)、オカヨシガモ(1)

ヨシガモ(27)、ヒドリガモ(23)、マガモ(145±)、ホオジロガモ(8)

ミコアイサ(2)、カワアイサ(4)、オオバン(2)、オジロワシ(5)、オオワシ(1)



ヒドリガモ



ホオジロガモ



2月の自然予報

マガンとハクガンは年が明けてからも確認されており、どうやら越冬したようです。早い年だと2月中に、新たに本州から渡って来た群れも見られるようになるでしょう。

湖はほぼ全面が結氷しています。オオハクチョウやカモ類を観察するには、「道の駅」前や「イソシギのテラス」から、川の流入部を探すのがよいでしょう。

オジロワシやオオワシは数が少ないものの、湖の氷上や対岸の樹上に発見されるでしょう。



青空を飛ぶオジロワシ
(となりはハシブトガラス。大きさの違いに注目)



エゾユキウサギの足跡

バッコヤナギは、早くも綿毛の芽がはっきりと確認できるようになるでしょう。

繁殖期を迎えたキタキツネは、凍った湖岸を歩く姿が目撃されるでしょう。

キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾリスなどの足跡が雪上に見られるようになるでしょう。



バッコヤナギの芽



【ハクガン】

名のとおり、からだ全体が白いガンの仲間。北極圏近くで繁殖し、日本には冬鳥として渡ってきますが、その数は少なく、国のレッドリストでは「絶滅危惧ⅠA」となっています。

近年の保護活動により、最近では徐々に渡来数が増えており、ウトナイ湖でも毎年、秋と春にマガンの群れの中に混じる数羽を確認するようになりました。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれるのかも。

Q. 「世界湿地の日」の2月2日は、ラムサール条約が結ばれた日。昨年10月には第13回締約国会議(COP13)が、ある都市で開催されました。その都市は次のうちどれでしょう。

(あ)ドーハ[カタール]



(い)アンマン[ヨルダン]



(う)ドバイ[アラブ首長国連邦]



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

2018年 10月 24日 雨

11:00 苫小牧市内の道路わきでうずくまっていたところを保護。

ミツユビカモメ

10月24日 11:50 センターへ搬入。右下腹部に数カ所の裂傷

及び広範囲で皮膚の露出と出血を認める。傷口の洗浄と消毒後、裂傷部分3カ所の縫合手術を行った。チカを小さめにカットして与えたところ、すぐに食べた。

10月25日 感染症予防のため抗生剤を魚に入れて投与。食欲旺盛。

11月22日 傷口の縫合力所が完治したため、抗生剤の投与を終了。

12月10日 肺疾患と思われる呼吸器症状が見られ、抗生剤の投与を再開。

リハビリ中

徐々に回復傾向にあるものの、現在もりハビリ中。



ミツユビカモメ (チドリ目カモメ科)

北海道には冬鳥として渡来します。主に海上で小魚やプランクトンを食べて生活していますが、悪天時には大群で港湾内に入ることもあります。普通のカモメ類の足指は前に3本、後ろに1本ですが、本種は後ろの1本が痕跡的できわめて小さく、指が3本に見えることが名前の由来です。海岸の崖の岩棚に大きな集団営巣地を形成し、一夫一妻で繁殖します。

「世界湿地の日」記念イベント

冬を楽しむミニツアー

日時：2月の土日祝(2/3は①のみ)
 各日①11:00~11:30②14:00~14:30
 定員：なし(小学生以下は保護者同伴)
 申込み：不要。当日①は10:30から
 ②は13:30から受付
 内容：自然観察路を歩きながら、レンジャーやボランティアがセンター周辺の自然を紹介します。結氷した湖、動物の足跡、活動する小鳥などを観察しましょう。



冬の湿地をスノーシューで探検しよう!

日時：2月3日(日) 13:00~14:30
 対象：どなたでも
 (小学生以下は保護者同伴)
 定員：先着20名
 申込み：電話(0144-58-2231)
 または直接来館で(1/4より受付)

定員に達しました

木の枝や落ち葉を用いた工作

日時：2月3日(日) 10:00~14:00
 対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
 内容：台風などで折れた枝や、落ち葉、木の葉などを用いて写真立てなどを作ります。

湿地クイズラリー

日時：2月開館日の開館時間内
 内容：館内に設置した、湿地に関するクイズに挑戦! 参加者にはしおりを差し上げます。

市民ギャラリー

「勇払原野の帰化植物写真展」

日時：第1回 1月6日(日)~1月19日(土)
 第2回 1月20日(日)~2月3日(日)
 展示：奥山 博美さん



「傷病鳥獣救護記録展」

日時：2月5日(火)~3月3日(日)
 展示：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。
 鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。
 また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間:午前9時~午後5時 / 休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

